

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル～ユニット(さくら)		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	令和元年9月2日	評価結果市町村報告日	令和元年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	令和1年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

等事業所は医療法人である。医療面においては協力病院もあり、協力体制も整っている。又楽しみである食事の食材は農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常の生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状態把握にに努め支援しています。職員はご利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごして頂けるよう笑顔ある暮らしを支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者にとって住み慣れた地域の住宅地に位置する事業所は、入居者の「笑顔のある安心した毎日」を応援するため、職員の寄り添いのもと生活が営まれています。年々入居者の年齢や介護度が高くなってきている現状の中、事業所の中を自由に散歩したり、入居者同士歓談したりとそれぞれの時間が流れている様子がうかがえました。職員面談では「入居者も職員もみんなが家族」であり、「利用者寄り添う」ことで「笑顔で話す」ことができ、「みんなで作り上げているグループホーム」であることが聞かれました。入居者それぞれに合わせた生活支援が自立支援であるとの考えで、過度になりすぎない介護も職員間で共有されている様子が見えました。今後も入居者の日常生活を大切にし、地域に根付いた事業所であることに期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の意見を尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう統一したケアを行い支援している。基本理念を掲げ入居者様が中心となる生活が送れるように意識しながら支援している。	理念は、職員だけでなく入居者や地域への啓発・共有に向け取組みを進めてきた。職員会議では法人の「家族と思って暮らせるように」との思いも職員へ伝えられ、入居者の日々の暮らしへの姿勢がうかがえた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にもホームで行われる慰問に出席して頂いている。その際、入居者様と話をされたし交流を深めている。	地域からの運営推進会議への参加も継続しており、近隣からのボランティア受入れや来訪も見られる。住宅地に位置するため、外に出ると近隣住民に会うことも多く、地域での生活が営まれている。	入居者の身体等状況により地域行事への参加や外出は難しい中、地域ボランティアの協力で「つつじ見学」への外出の様子も聞かれました。今後も入居者と地域との関わりの継続に期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学希望がある際やボランティア受け入れの際に認知症の方の理解や支援方法等、丁寧に分かりやすく説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を行い、町役場、地域包括センター、社協、区長、民生委員、ご家族様に参加頂き、状況報告や取り組みを報告し委員の方よりアドバイスを頂き、サービスの向上に生かしている。	会議では事業所からの報告はもちろんのこと、家族・地域・行政・事業所間では地域に根付いた質疑応答も活発になされている。入居者家族は毎月数家族の参加がある。会議時の報告等配布資料では、プライバシーも配慮し入居者情報はインシヤルで作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に状況報告、ケアサービスの取り組みを伝えながらまた、役場の事業計画にも参加、それ以外にも質問・相談・報告を行い、その都度連携を取っている。	運営推進会議には町役場より必ず出席され、事業所の状況は良く理解頂いている。会議には地域包括センター、社協からも参加される。日頃も報告・相談等により協力関係構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング等で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように周知又スタッフがストレスを溜め込まないように月1回のミーティングで発言できる場を設けている。	全体ミーティング時に毎回身体拘束について考える時間を設け、テーマを持った具体例や職員の困っている事例等、意見を出し合い話す機会作り、職員の理解と共有、取組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者の権利擁護の研修を受け、虐待防止等、権利人権等について学び職員へ勉強会などで周知徹底を図り、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い、制度について学び知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様へ十分な説明を行い、理解と同意をされ、サインと捺印を頂いている。内容の変更や介護報酬改定時には、書面で説明同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し苦情や不満など題し易いようにしている	家族の面会時には職員からも声を掛け、また管理者も常駐していることから意見の出やすい環境作りに努めている。入居者の担当職員から毎月「状況報告書」にて日頃の様子が伝えられている。運営推進会議でも毎回数家族は参加があり、意見を述べる機会もある。	日頃の様子において職員が「手が空いたら入居者に寄り添い話す」状況が見学や面談からもうかがえました。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや申し送り、日常業務内において、スタッフの意見、要望を聞くように努めており反映の為の努力をしている。	日頃から管理者や他の職員と意見を出し合う体制ができています。2ユニット体制であるため、ミーティングでは勤務時間の見直しや入居者に対するケアについて、また両ユニット間での協力体制等も話し合わせ、都度運営・業務に反映されている。	ミーティングの様子、職員面談の様子から、取組みが入居者の生活のためにと考えられている様子がうかがえました。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握、評価を行い、各自スタッフと相談、面談も受けながら残業した時は、手当て付ける等、労働条件の整備をする事で、やりがいある職場になるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアにつながっていく大切な要素である事と考えている。両ユニットで周知を行い職員参加を勧め、勉強会で報告、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームで連携を取り、困難事例や職員間の問題がある場合は検討し話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族様と面談を行い、それぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ初期に少しでも信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から多くの情報を頂く為、困っている事、不安な事、ご意向など傾聴し入居前に見学して頂きサービス内容の説明を行い不安軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で現状での状況を見極めケアプランを作成し、モニタリングを行い、本人に必要なサービス、支援を見つけ出し対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一緒にテレビを見たり、ソファに座り昔の話を聞いたり本人様の体調に合わせて軽作業と一緒に取り組むことで支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で近況報告し、安心して頂くと共に、ご家族様との絆を大切に、ご家族だけの時間も提供する。ご家族の協力のもと一体となって入居者を支えている事を理解していただけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の今までの繋がりが継続して出来るように、情報を収集し関係継続に努めている。親戚、姉妹、子供様など日時を合わせていただけるよう支援したり、ご家族とのふれあいを大切にしている。	入居者は地域からの入居であるため、近隣や知人の来訪も見られる。家族との関わりも大切にしており、親戚の来訪や家族との外出等も継続して見られる。	入居者の状況から地域行事等への気軽な外出も難しい状況がうかがえました。来訪による関係継続も多くなってきているようですが、入居者それぞれの状況に合わせた支援の継続に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話ができる様にリビングでの椅子を準備したり、スタッフと他ユニットへ散歩に行ったり、車椅子を押して上げたりなど様子を見ながら、手を差しのべられる方もあります。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院に入院されても、お見舞いに行ったり、ご家族様の意向を確認して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをし日々の会話や関わりの中からニーズを把握するように努め訴えを記録に残すようにしている。申し送りやミーティングで話し合い日々の過ごし方など、その時の状況に合わせて、本人本位に検討している。	「入居者に寄り添う」「言葉に耳を傾ける」姿が事業所全体で日常的に行われており、関わりを通じて把握が行われている。意見は日に2回の申し送りや状況によってミーティング等で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書や、入居時の本人様、ご家族様から情報でアセスメント、フェイスシート作成し、記録に残し職員へ周知を行っていくことで馴染みで暮らしやすい生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で連携を取り、情報提供し合い、その方の出来る事、出来ない事を把握し、出来る事の支援を行い、安心して暮らせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画表の目標の評価・モニタリングは毎月、各担当で行って、ご家族様への報告・意見を頂き、必要時にはカンファレンスを行い、プランの見直しを実施している。	職員は入居者の担当を持ち、毎月評価・モニタリングを行っている。日々の関わり・体調・食事の様子は職員からも家族へ報告、意見は必要によりカンファレンスを得てプランの見直しへとつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康チェック、食事量、排泄、睡眠、ケアの気づきなど記録に残し、申し送り、情報の共有につなげてよりよいケアへ繋げる工夫プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院介助、ユニット併設を活かし、お互いに行き来し、気分転換を図るように努めている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動をされている。方々に慰問に来て頂き、踊りや歌を披露して頂き、一緒に踊ったり、歌ったり、手遊びしたり、楽しまれております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医への受診介助を行い、又、往診して頂くこともあります。体調不良時にはNsより、状態報告を行い、医療機関との連携もスムーズに出来ている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。基本的に通院は家族介助としているが、職員による介助も行う。歯科の往診も受入れている。入院が必要と判断された場合にも見舞い等で関係継続し、受入のための支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康チェックを行い、健康管理に注意している。変化・気づきがある場合、Nsへ伝え、日中・夜間でもオンコールにて、急変時対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師と連携を取り、情報提供、フェースシートで、緊急連絡先、内服薬、病歴、入院までの経歴など詳しく書いて、渡している。入院後、お見舞いに行つて様子を伺っている。治療が終了した場合には、早めの受け入れ支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた看取り指針を作成しており、入居者の状態を見ながら、早い段階から、ご本人・ご家族様の意向を確認し、事業所でできる事を説明し、話し合つて方針を共有している。	入居時に事業所の方針を説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には家族と入居者の意向を第一として話し合いを重ね、現状では医療機関へ移行となる場合も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングにおいて、急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練は行っている。連絡などについても、指導・周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、避難訓練地域の方々の支援も受けながら実施しています。日中・夜間の想定し、年2回の消火、通報、避難訓練を実施し、実際に、安全にすばやく対応できるように取り組んでいます。	避難訓練は年2回、うち一回は消防署の立ち合いのもと実施しており、訓練を機会に消火栓の確認を行った。運営推進会議等を利用し、近隣にも火災時の協力をお願いしている。	

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人ひとりに対して、常にその意思と尊厳を大切に優しく、敬意のある対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、利用目的を定めて、同意書交わし、勉強会でスタッフへの周知も行っている。	職員は入居者一人ひとりそれぞれに対し向い合い耳を傾け対応している。近年トイレ利用にも声掛けが必要な場面が増えたが、声掛け方法や対応への配慮を行っている。運営推進会議の資料等には入居者情報はイニシャルを使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し、自らが決定や選択する事ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、入居者の希望を聞き、大切にしながら、生活のペースを乱す事なく、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服薬等、ご自身で選択できる人には、本人に任せ、介助が必要な人には、その人らしい身だしなみを支援、洗面介助、髭剃りなど、声掛け、一部介助を行っております。理・美容室も、馴染みの利用をしている人もいます。(月1回訪問理容も利用している)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、調理の下ごしらえ、皮むき、味付け、味見など一緒に出来る事を支援しています。又、個別に好みや嚥下能力に合わせ、工夫して提供している。	法人の農園で収穫された旬の野菜が配達され、献立に取入れられている。食事作りはユニット毎に職員により行われており、家庭らしい温かさがうかがえる。食事中は職員も共に時間を過ごし会話も弾む様子がある。好みに応じ多少のメニュー変更も可能で、状態によりミキサー食やとろみ付も対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立表を作成し、個々の嚥下状態に応じた形態の食事提供・食事量・水分量の記録を行い、必要に応じて補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、利用者様の状態に応じて、歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジを使用しケアをしている。就寝時には、義歯を定期的に洗浄液にて消毒している。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から把握し、トイレの声掛けやおムツを確認したり、オムツ削減に努め排泄の自立にむけた支援を行っている。	出来るだけトイレでの排泄に向けた支援を行っているが、声掛けによる誘導も増えてきた。状況によりおむつやパット、ポータブルトイレを利用している。ポータブルトイレ利用の際は臭気にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表で把握、食物繊維の多い食品の提供、水分補給を行い、運動や腹部マッサージをしてもらい、予防に取り組み、便秘の人には、下剤の量で調節しながら服用してもらいコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声掛けをし、本人様の意向を聞き入浴支援している。本人様のペースに合わせて一人対応で行っていますが、安全の為二人介助で移動動作の介助を行う事もあります。	定期的な声掛けに合わせて本人の希望により週2回以上の入浴支援を行っている。入居者の自立度により見守り、一人介助、二人介助と個々の程度に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を良く観察し、体調不良や疲れがある時は速やかに居室に誘導し休んで頂いている。不眠時には温かい牛乳など提供したり、居室の温度・湿度調整、体位の工夫など支援し、定期巡回を行い、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診した時の薬の説明書を個人ファイルに入れ、閲覧できるようにしている。内服薬処方時に申し送り、病状の変化はスタッフ間で共有している。服薬は一人ひとり手渡し口に入れるなど、確実に服用したか、確認見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族様から情報・生活歴をもとに嗜好や趣味などを把握し、その方の能力に応じて、洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を持ってもらったり、サロン参加などの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人様の体調に合わせた散歩などの支援を行っています。又、ご家族様の協力も頂き、定期的に外出したり、地域の人々の協力を得ながら、健康ウォークに参加した事もあります。	最近では入居者の介護度が多岐にわたり、その日の希望によった気軽な外出は難しくなってきたのが現状であり、日常的な外出は個別での近隣の散歩等が主になっている。家族協力のもと、定期的な買い物や通院を利用した外出等も行われている。	年中行事では地域ボランティア協力での外出行事等、支援を継続されています。事業所内は窓を開け外気を感じる工夫をされたり、ユニットを出て隣ユニットまで散歩する入居者の姿があったりと「外出」に近い動きが工夫されています。

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様やご家族とも話し合い、金銭の管理は職員が行っていますが、本人様が必要な物など自由に使えるようにしており、病院受診時の支払いなどスタッフと一緒に支払うなどの支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、電話をしたり、電話を取り次いだり、ご家族との絆を大切にしています。お手紙が届けば、返事を書いたり支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、車椅子での移動もスムーズに出来るようになっています。台所での様子や準備に食器を洗う音などが聞こえ、生活感を感じられます。居室やトイレの場所がわからない方も誘導し、混乱しないように表示、似顔絵を描いて名前を入れたり工夫しています。	玄関を入り多目的スペースを挟んだ両側に位置するユニット内は明るくゆったりとしており、車椅子での移動もスムーズである。リビングスペースでは生活の音・食事時の香りを感じながら過ごす入居者と職員の様子が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居場所を確保し、自由に過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人様が馴染みのあるものを持ち込みレイアウトをしており、心地良く過ごす事ができるよう工夫している。	居室はベッド・マットレスが備え付けられており、それぞれ使い慣れた筆筒や生活用品が持ち込まれている。リビングに飾った後の季節の掲示物を居室に再掲示されているユニットもあり、ベッドで過ごす時間の長い入居者の目を楽しませている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりを設置してあり、危険の排除を第一に安全確保をしています。残存能力を低下させない為にも、自立した生活ができるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル～ユニット(かえで)		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	令和元年9月2日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

等事業所は医療法人である。医療面においては協力病院もあり、協力体制も整っている。又楽しみである食事の食材は農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状態把握にに努め支援しています。職員はご利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごして頂けるよう笑顔ある暮らしを支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の意見を尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう統一したケアを行い支援している。基本理念を掲げ入居者様が中心となる生活が送れるように意識しながら支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にもホームで行われる慰問に出席して頂いている。その際、入居者様と話をされたし交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学希望がある際やボランティア受け入れの際に認知症の方の理解や支援方法等、丁寧に分かりやすく説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回会議を行い、町役場、地域包括センター、社協、区長、民生委員、ご家族様に参加頂き、状況報告や取り組みを報告し委員の方よりアドバイスを頂き、サービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に状況報告、ケアサービスの取り組みを伝えながらまた、役場の事業計画にも参加、それ以外にも質問・相談・報告を行い、その都度連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング等で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように周知又スタッフがストレスを溜め込まないように月1回のミーティングで発言できる場を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者の権利擁護の研修を受け、虐待防止等、権利人権等について学び職員へ勉強会などで周知徹底を図り、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い、制度について学び知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様へ十分な説明を行い、理解と同意をされ、サインと捺印を頂いている。内容の変更や介護報酬改定時には、書面で説明同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し苦情や不満など題し易いようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや申し送り、日常業務内において、スタッフの意見、要望を聞くように努めており反映の為の努力をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握、評価を行い、各自スタッフと相談、面談も受けながら残業した時は、手当て付ける等、労働条件の整備をする事で、やりがいある職場になるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアにつながっていく大切な要素である事と考えている。両ユニットで周知を行い職員参加を勧め、勉強会で報告、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームで連携を取り、困難事例や職員間の問題がある場合は検討し話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族様と面談を行い、それぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ初期に少しでも信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から多くの情報を頂く為、困っている事、不安な事、ご意向など傾聴し入居前に見学して頂きサービス内容の説明を行い不安軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で現状での状況を見極めケアプランを作成し、モニタリングを行い、本人に必要なサービス、支援を見つけ出し対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一緒にテレビを見たり、ソファに座り昔の話を聞いたり本人様の体調に合わせ軽作業と一緒に取り組むことで支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で近況報告し、安心して頂くと共に、ご家族様との絆を大切に、ご家族だけの時間も提供する。ご家族の協力のもと一体となって入居者を支えている事を理解していただけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の今までの繋がりが継続して出来るように、情報を収集し関係継続に努めている。親戚、姉妹、子供様など日時を合わせていただけるよう支援したり、ご家族とのふれあいを大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話ができる様にリビングでの椅子を準備したり、スタッフと他ユニットへ散歩に行ったり、車椅子を押して上げたりなど様子を見ながら、手を差しのべられる方もあります。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院に入院されても、お見舞いに行ったり、ご家族様の意向を確認して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをし日々の会話や関わりの中からニーズを把握するように努め訴えを記録に残すようにしている。申し送りやミーティングで話し合い日々の過ごし方など、その時の状況に合わせて、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書や、入居時の本人様、ご家族様から情報でアセスメント、フェイスシート作成し、記録に残し職員へ周知を行っていくことで馴染みで暮らしやすい生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で連携を取り、情報提供し合い、その方の出来る事、出来ない事を把握し、出来る事の支援を行い、安心して暮らせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画表の目標の評価・モニタリングは毎月、各担当で行って、ご家族様への報告・意見を頂き、必要時にはカンファレンスを行い、プランの見直しを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康チェック、食事量、排泄、睡眠、ケアの気づきなど記録に残し、申し送り、情報の共有につなげてよりよいケアへ繋げる工夫プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院介助、ユニット併設を活かし、お互いに行き来し、気分転換を図るよう努めている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動をされている。方々に慰問に来て頂き、踊りや歌を披露して頂き、一緒に踊ったり、歌ったり、手遊びしたり、楽しまれております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医への受診介助を行い、又、往診して頂くこともあります。体調不良時にはNsより、状態報告を行い、医療機関との連携もスムーズに出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康チェックを行い、健康管理に注意している。変化・気づきがある場合、Nsへ伝え、日中・夜間でもオンコールにて、急変時対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師と連携を取り、情報提供、フェースシートで、緊急連絡先、内服薬、病歴、入院までの経歴など詳しく書いて、渡している。入院後、お見舞いに行つて様子を伺っている。治療が終了した場合には、早めの受け入れ支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた看取り指針を作成しており、入居者の状態を見ながら、早い段階から、ご本人・ご家族様の意向を確認し、事業所でできる事を説明し、話し合つて方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングにおいて、急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練は行っている。連絡などについても、指導・周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、避難訓練地域の方々の支援も受けながら実施しています。日中・夜間の想定し、年2回の消火、通報、避難訓練を実施し、実際に、安全にすばやく対応できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人ひとりに対して、常にその意思と尊厳を大切に優しく、敬意のある対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、利用目的を定めて、同意書交わし、勉強会でスタッフへの周知も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し、自らが決定や選択する事ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、入居者の希望を聞き、大切にしながら、生活のペースを乱す事なく、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服薬等、ご自身で選択できる人には、本人に任せ、介助が必要な人には、その人らしい身だしなみを支援、洗面介助、髭剃りなど、声掛け、一部介助を行っております。理・美容室も、馴染みの利用をしている人もいます。(月1回訪問理容も利用している)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、調理の下ごしらえ、皮むき、味付け、味見など一緒に出来る事を支援しています。又、個別に好みや嚥下能力に合わせ、工夫して提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立表を作成し、個々の嚥下状態に応じた形態の食事提供・食事量・水分量の記録を行い、必要に応じて補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、利用者様の状態に応じて、歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジを使用しケアをしている。就寝時には、義歯を定期的に洗浄液にて消毒している。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から把握し、トイレの声掛けやおムツを確認したり、オムツ削減に努め排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表で把握、食物繊維の多い食品の提供、水分補給を行い、運動や腹部マッサージをもらい、予防に取り組み、便秘の人には、下剤の量で調節しながら服用してもらいコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声掛けをし、本人様の意向を聞き入浴支援している。本人様のペースに合わせて一人対応で行っていますが、安全の為二人介助で移動動作の介助を行う事もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を良く観察し、体調不良や疲れがある時は速やかに居室に誘導し休んで頂いている。不眠時には温かい牛乳など提供したり、居室の温度・湿度調整、体位の工夫など支援し、定期巡回を行い、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診した時の薬の説明書を個人ファイルに入れ、閲覧できるようにしている。内服薬処方時に申し送り、病状の変化はスタッフ間で共有している。服薬は一人ひとり手渡し口に入れるなど、確実に服用したか、確認見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族様から情報・生活歴をもとに嗜好や趣味などを把握し、その方の能力に応じて、洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を持ってもらったり、サロン参加などの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の体調に合わせた散歩などの支援を行っています。又、ご家族様の協力も頂き、定期的に外出したり、地域の人々の協力を得ながら、健康ウォークに参加した事もあります。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様やご家族とも話し合い、金銭の管理は職員が行っていますが、本人様が必要な物など自由に使えるようにしており、病院受診時の支払いなどスタッフと一緒に支払いするなどの支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、電話をしたり、電話を取り次いだり、ご家族との絆を大切にしています。お手紙が届けば、返事を書いたりと支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、車椅子での移動もスムーズに出来るようになっていきます。台所での様子や準備に食器を洗う音などが聞こえ、生活感を感じられます。居室やトイレの場所がわからない方も誘導し、混乱しないように表示、似顔絵を描いて名前を入れたり工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居場所を確保し、自由に過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人様が馴染みのあるものを持ち込みレイアウトをしており、心地良く過ごす事ができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりを設置しており、危険の排除を第一に安全確保をしています。残存能力を低下させない為にも、自立した生活ができるように支援している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 菊陽スマイル

作成日 令和元年 11月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議で取り組み状況・報告内容が不足していると思われる。	ホームでの運営状況、取り組みなど施設長も交えた意見交換が必要	運営推進会議への施設長の参加の依頼 状況報告の内容の検討を行う。	6か月
2	60	外出行事・イベント等が思うように実施できなかった。	季節に応じた外出・買い物など次年度はさらに取り入れていく。	北小校区の民生委員さん方のボランティア依頼をおこなう。また、ご家族へ協力依頼を積極的におこなう。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。